ヒアリング回答書

二地域居住の受入れに関するヒアリングへの回答

令和8年10月13日

下塚田ふるさと応援隊

このたびはヒアリングの機会をいただき、ありがとうございます。下塚田ふるさと応援隊（会員19名、平均年齢65.2歳）としての現時点の考えを、以下の通り回答します。なお、個人が特定されないよう、会員の氏名は記載せず「会員」「実行委員会役員」などと表記しています。

質問１：この数年で変わってきたとお感じになることを教えてください。

人の減少と高齢化が進む一方で、地区の外から関心を寄せてくださる方が目に見えて増えています。

- 下塚田地区は71世帯・139人で、高齢化率は約6割です。2025年度までは地区内の圃場がすべて管理されていましたが、高齢化により、約3ヘクタールが耕作放棄地になりました。
- 一方で、イベントを開くたびに参加者が増えています。田んぼあぜ道軽トラ市の第1回（2025年12月）は来場者約1,890名で、約6割が地区外からの方でした。週末焚き火のこころみは、これまでの累計参加者が215名（13回開催、第15回時点）です。
- Instagramなどインターネット上の閲覧者数も、大きく増えています。

担い手の高齢化と、地区外からの関心の高まりが同時に起きていることが、この数年の大きな変化だと感じています。

質問２：「二地域居住」という言葉をお聞きになったことはありますか。どのような方をイメージされますか。

言葉は存じています。当団体では、次のような方をイメージしています。

- 住民票は移さず、月に数日、あるいは年に数回、継続して地区に通ってこられる方
- 地区の行事や農作業（特に日南レモンの収穫期）に参加し、地域の一員として関わってくださる方

観光で一度だけ訪れる方ではなく、回を重ねて顔なじみになっていく方を想定しています。

質問３：これまでに、イベントに繰り返し通ってこられた方はいらっしゃいますか。うまくいった例と、うまくいかなかった例を、それぞれ教えていただけますか。

焚き火や軽トラ市に、繰り返し来てくださっている方がいます。

【うまくいった例】

- 回を重ねるうちに会員や住民と顔なじみになり、地区外からも継続して参加してくださっています。イベントの輪が、地区内にとどまらず外へ広がる効果を実感しています。

【うまくいかなかった例（課題）】

- 週末焚き火のこころみは、当初、田んぼの農道を会場にしていました。しかし、お手洗いの確保が難しいこと、駐車場所が限られること、夜道の歩行に不安があることから、第15回

（2026年10月10日）から公民館駐車場に会場を移しました。来てくださる方が続けて参加するには、受入れ環境（お手洗い、駐車、安全面）の整備が欠かせないと学びました。

質問４：住民票は移さずに、月に数日、あるいは年に何回か滞在される方が地区に来られるとしたら、どのような方であれば「来てもらってよかった」と思えそうでしょうか。逆に、こういう来られ方は困る、というのはありますか。

【来てもらってよかったと思える方】

- あいさつを交わし、地区のルールや慣習を尊重してくださる方
- 行事や共同作業で、できる範囲の役割を分担してくださる方
- 滞在の予定や連絡先を、事前に知らせてくださる方

【困る来方】

- 事前の連絡なく来訪・滞在される方
- 地域の行事や共同作業を避け、地区との関わりを持とうとされない方
- ごみ、騒音、私有地への立入りなど、近隣への配慮を欠く方

質問５：実際にそうした方が来られたとして、日々の暮らしのなかで気になりそうなことはありますか。ご自宅の近くの空き家に入ってこられた場面を思い浮かべてお答えください。

次のような点が気になると思われます。

- ごみ出しの方法や日程が守られるか
- 敷地の草刈りや管理が、滞在していない期間も含めて行われるか
- 夜間の騒音や、火の元（焚き火・暖房など）の扱い
- 不在時や緊急時に、連絡がつくか

事前に会員と顔合わせの機会を持つこと、地区側の連絡窓口を決めておくことで、多くは解消できると考えています。

質問６：そうした方について、外部の人が団体のスタッフとして参加することについて、どのようにお考えになりますか。（現時点での想定・意見でOK）

前向きに考えています。ただし、段階を踏むことが大切だと考えています。

- はじめは、行事当日の手伝いなど、単発の関わりから始める。
- 信頼関係ができてから、継続的な役割へ広げていく。
- 会計、契約、地権者との調整など、責任の重い事柄は、これまでどおり会員が担う。

質問７：こうした受入れを進めるとしたら、市に用意しておいてほしいことは何ですか。

- 空き家の所有者と利用希望者をつなぐ相談窓口と、利用条件のひな形（貸し借りのルール、管理の分担）
- 滞在中の事故やトラブルに備えた、保険や相談先の案内
- 受入れ団体への支援。受入れの手間（連絡調整、案内、見守り）は、高齢化が進む地区の負担になりやすいためです
- 拠点となる施設。当地区には、拠点施設、加工施設、近くのコミュニティセンターがなく、来訪者を迎え入れる場所が不足しています

質問８：下塚田では、あぜ道軽トラ市やこいのぼりなど、住民の方が主体となって活動をされていると伺いました。いまはどのような方々が、どのように運営されているのでしょうか。

地区の方々が主体となり、団体どうしが協力して運営しています。

- 田んぼあぜ道軽トラ市：当団体から独立した実行委員会（会長・副会長・会計の役員3名）が運営し、当団体が支援しています。農村RMO事業が終わった後も続けられるよう、2026年8月に新たに設立しました。農道・田んぼのあぜ道を会場とする軽トラ市で、第2回は2026年12月20日に開催予定です。
- こいのぼり：2008年から続く取り組みで、「ゆめ豊か下塚田」と当団体が協働して運営しています。
- 週末焚き火のこころみ：発起人の皆さんと当団体の共催で、2026年度は毎週末に開催しています。

当団体の会員は19名（平均65.2歳）で、地区の住民が中心です。

質問９：月に数日だけ地域にいらっしゃるような方に、こうした活動に加わっていただくとしたら、どのようなことをお願いできそうでしょうか。逆に、お願いしにくいことは何ですか。

【お願いできそうなこと】

- イベント当日の設営、受付、案内、片付け
- 写真撮影やSNSでの発信など、広報の手伝い
- 草刈りや収穫（日南レモンの収穫期など）の援農

【お願いしにくいこと】

- 会計や契約など、金銭や責任に関わること
- 地権者や近隣住民との交渉・調整
- 継続的な当番や、急な呼び出しに応じる必要のある役割

以上

本回答は、下塚田ふるさと応援隊の現時点での考えをまとめたものです。